

2. 火山の概況

(平成 15 年 11 月 20 日 ~ 平成 15 年 11 月 26 日)

期間中、5 火山の火山活動度レベルに変化はなかった。浅間山では地震がやや多い状態が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発であった。桜島では噴煙活動が継続した。(週間地震・火山概況の中では、期間中のレベルの状態を記述している。最新のレベル及び各々の火山のレベル区分については、気象庁ホームページに掲載しているのを利用されたい。)

その他の火山については、富士山ではごく弱い噴気が確認された。三宅島では噴煙活動が継続した。霧島山では微動が発生した。桜島、諏訪之瀬島では噴火があった。薩摩硫黄島では微動が発生した。

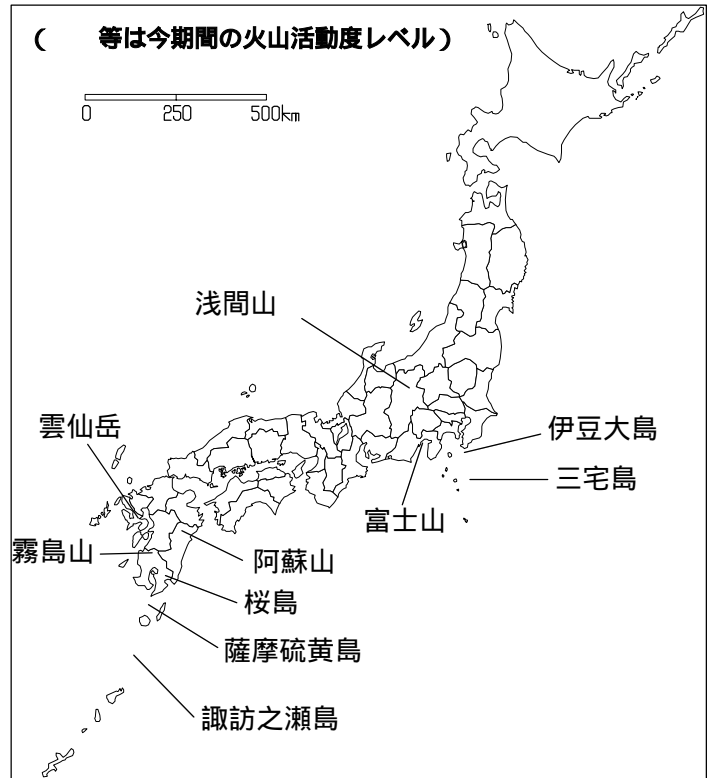


図 1 記事を掲載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		樽前山	富士山	三宅島	伊豆島	噴火浅根	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号										
48	11/20-11/26	2		1		2		1		2											
47	11/13-11/19	2		1		2		1		2											
46	11/ 6-11/12	2		1		2		1		2											
45	10/30-11/ 5	2		1		2		1		2											
44	10/23-10/29	-		-		-		-		-											

注 1 記号の意味

- : 噴火した火山
- △ : 観測データ等に変化があった火山
- ◇ : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字** : 火山活動度レベル

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

浅間山 [地震・微動・熱] レベル：2 (やや活発な火山活動)

6 月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間もやや多い状態が続いており、1 日あたり 23~48 回観測された。また、振幅の小さい微動は 22 日に 1 回観測された(前期間は 1 回)。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測された。

富士山 [噴気]

東北東斜面の標高約 1,530m の林道脇で確認された地面の陥没とごく弱い噴気は、25 日に実施した現地観測では、前回の観測時(10 月 24 日)と比べ特に変化はなかった。9 月 22 日から行っている噴気温度の連続観測では、降水等の気象の影響と考えられる変動はみられるものの、最高温度は約 42 で大きな変化はなかった。

山頂の北東~東部のやや深いところを震源とする低周波地震が、期間内に 9 回とやや多く発生したが、いずれも規模が小さいもので、その他の観測データには異常な変化はなかった。

伊豆大島 レベル：1（静穏な火山活動）

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなかった。

三宅島 [地震・噴煙]

振幅の小さいやや低周波の地震は、26日14～17時に24回とまとまって観測され、26日の日回数は57回とやや多かったが、これに伴ってその他の観測データに特に変化はみられなかった。26日以外の日回数は25～39回と落ち着いた状態で推移した。

監視カメラによる噴煙の観測では、白色の噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上600mであった。

GPSによる地殻変動観測では、今年6月頃から再び島の収縮傾向を示している。

阿蘇山 [熱・地震・微動] レベル：2（やや活発な火山活動）

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口内の状況は、26日に実施した現地観測によると、見かけ上の湯だまりの面積は約5割となっており、減少傾向が続いている。湯だまりの色は乳緑色で、湯だまりの中央部付近で噴湯現象が確認された。湯だまり表面の温度の最高は79と依然高い状態が続いている（前回の観測時（14日）も79）。また、南側火口壁の温度の最高も402と依然高い状態であった（前回の観測時は302）。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上500mであった（前期間も少量・白色で最高高度は500m）。

火山性地震は、21日に中岳第一火口付近を震源とするA型地震が発生し、白水村中松（阿蘇山測候所、同火口の西南西約1.3km）で震度1を観測した。この地震の発生前後で地震活動に特段の変化はなく、期間中のA型地震の回数は10回（前期間は4回）、B型地震の回数は14回（前期間は13回）であった。

孤立型微動は、今期間の発生回数が1,814回（前期間は1,750回）と多い状態が続いた。

GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

雲仙岳 レベル：1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

霧島山 [微動]

前期間の13日に続き、21～23日に御鉢付近が震源とみられる微動が計6回発生した。東京大学地震研究所の高千穂西観測点における観測では、最も大きい微動の最大振幅は18 μ m/秒、継続時間は6分で、2001年秋以降に発生した微動の中では、振幅は中程度、継続時間は短いものであった。監視カメラによる観測では、この微動に関係して御鉢の噴煙活動等に特段の異常は見られなかった。

桜島 [爆発・噴煙・地震] レベル：2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、1回の噴火があり爆発であった（前期間は噴火1回、爆発なし）。南岳山頂火口の噴煙の状況は、中量・灰白色の噴煙が、最高で火口縁上1,600mまで上がるのが観測された。

鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では、降灰は観測されなかった（前期間は降灰日数は計3日、降灰量は計1g/m²）。

火山性地震は、A型地震の多い状態が続き、今期間の合計は32回であった（前期間は48回）。

薩摩硫黄島 [微動]

前期間に引き続き、噴火はなかったが、連続微動がしばしば発生した。

噴煙活動は、山麓の監視カメラの観測によると、白色・少量の噴煙が最高で火口縁上300mまで上が

った。

諏訪之瀬島 [降灰・微動]

期間中、爆発はなかった（前期間も爆発なし）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、21日に切石港で、23日07時～11時頃に部落内で、それぞれ降灰があった（いずれの確認場所も、御岳の南南西約4km付近）。

連続微動がしばしば発生した。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第645号 (1日2回発表)	20日09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第659号	26日16:30	
阿蘇山	火山観測情報第28号	20日11:30	火山活動がやや活発(孤立型微動が引き続き多い、中岳第一火口の熱的な状態が高い)。火山活動度レベルは2。